



蘭使日本紀行

一

ル 3
1138
1



ル 3
1138
巻 1



緒言

本編題して阿蘭使節日本紀行ハ云ノ阿蘭ヲハステルガム書肆ヨコバシ
 ヲラリス西曆千六百六十九年寛文九年出版也スル所今茲明治十四年
 距ルノ二百十一年前ニアリ惜哉陳編殘存者ハ脱落散逸スル所アリ
 本編四百五十五頁四十六葉又千二百二十七年二月二十八日ニ百二十九日ニ
 百三十葉以上八葉散逸スル
 絶ラ無クシテ僅クニ存スルノ古書メニテ以テ類本ノ參照ニ供スルキナシ
 故ニ憾ムルナキハ編者ノ名氏ヲ詳クニセザルナリ莫クニ全編ヲ通観シテ之ヲ
 察スルニ致回使節ノ紀行ヲ撰取シ加フルニ諸家ノ説ハ自家ノ考案ハシテ
 互錯綜シテ編纂スルナリ而シテ各人親シク見聞スル所ノ事ニ
 解ル物ニ感シテ古今ノ類例遠近ノ證蹟ヲ列記ス故ニ全編ノ體裁メニヤ編

耳歴史ニアラス又地理記事ニラス寧日雜錄漫筆ヲハハシニ似シ其大
要ヲ概言スルハ全編オラスニ卷ノ反シ

上卷ニハ 地球圖形 世界海陸 人種根源 萬國疆域 日本海峽 南龍

或西明之刺見 葡葡天王新世界之刺見セシメテ勅々 日本入丁西葡人シ

誘引ス 葡僧日本ニ入ル 葡八東印土南宮ヲ設立ス 佛帶比里ニ領事ヲ

置ク 日本ニ通商ス 有馬及ヒ大相候ヨリ羅瑪法王ニ使者ヲ送ル 使者

羅瑪ニテ受過セラル 葡八年ノ南館ヲ開ク 後ニ長崎出船ニ移ル再未

年ニ南船渡来申出州江ノニキテ戰軍ニ謁見スルノ状ヲ記ス就中

十五百六十五年 文徳八年 口ラガエキフカシラス

十六百一十一年 慶長十六年 ヤコブスノキキヨウ 羅瑪ニテ神祖ヲ謁シ通商信牌ヲ賜ル

十六百二十六年 寛永三年 西ノラガメヲラハセル 天皇ニ倭城ニ事スルノ行装ヲ觀ル

十六百三十四年 寛永十一年 フランシスノカカシ ンガキハムダケル

十六百四十九年 慶安二年 カレドニアノフルーノカカシ ンガキハムダケル

瑞航ヲ以テ結成ハス而シテ

下卷ニハ 更ニ端ヲ改メテ

十六百四十二年 寛永二十年 ンガキハムダケル 南部ノ深島ニ江

ニ發送セラル始末

十六百五十六年 明暦三年 佛アリアスワレゲナル 例外使節 江ノ大

十六百五十七年 明暦三年 日人 定例使節 燒死十万人

十六百六十二年 寛文元年 ンガキハムダケル

奥平美作守 下野 宇都宮	奥田伊豆守 信州	足花飛騨守 近江	小笠原左衛門 越前
十ヶヶ々守 秋田	南郡信濃守 奥州	丹波右衛門 奥州	河部備中守 武州
末祖采女 丹波守	坂野駿河守 越後	中川内膳 豊後守	松平主家 信州
内藤左馬 常陸	池田備中守 備中	松浦肥前守 肥前	志村周防守 信州
カマエフト 江州大津	大澤右衛門 奥州	松平正見守 播磨	松浦豊茂守 肥前
石河重殿 豊後守	津越越中守 奥州	小笠原信濃守 播磨	伊東修理 豊後
坂田周防守 不見	服氏淡路守 信州	土岐長門守 美濃	有馬左衛門 美濃
大田周防守 大和	松平出羽守 越前	溝口伯耆守 越後	稻葉山部 豊後
奥田田守 奥州	松平周防守 奥州	本多周防守 信州	一柳直明 伊予
本多伊勢守 信州	松平山城守 奥州	毛利甲斐守 美濃	本多勝登守 播磨

アヒリヤウノス 常陸	浅野孫次 信州	内藤能伊守 美濃	如藤式部 奥州
相馬大膳正 奥州	本多大和守 奥州	大久保長門守 美濃	内藤豊前守 奥州
稲葉淡路守 奥州	奥井テイリキ 奥州	時相内守 大和	本多飛騨守 越前
板東周防守	松平豊後守 奥州	本多内記 播磨	松平丹次守 奥州
尾藤中守 奥州	志村修理 奥州	本多内記 播磨	松平右近 播磨
水谷壹以守 奥州	今坂甲斐守 奥州	松平入和守 奥州	新田周防守 奥州
松平主殿 奥州	秋月長門守 奥州	諏訪因幡守 奥州	保科兵庫 信州
菅沢織部 奥州	島津右近衛 奥州	木下得寸 奥州	宗 對馬守 奥州
近藤信濃守 奥州	本多下總守 奥州	高力振津守 奥州	新庄駿河守 奥州
佐久間信守 奥州	大田對馬守 奥州	本多和泉守 奥州	徳川土佐守 奥州

三	日本軍	一	江ノ城	一	又草候御	三	步兵三千五百人
四	公方相創	二	一	二	北前	四	江ノ南部長官
五	梅	三	一	三	四	一	香後
六	番所又山	四	二	四	一	二	歌寺
七	鑓	五	三	三	三	三	坊主長一家
八	兵卒	六	四	二	四	四	歌定ノ所
九	山ノ邊ノ兵	七	五	二	四	四	神ノ寺
一〇	増多寺 一〇七	八	六	二	四	四	兵卒番所
一一	四生半蔵ノ庄根	九	七	三	四	四	兵卒番所
一二	白壁壁	一〇	八	三	三	五	火見櫓
一三	番所邊ノ庄根	一一	九	三	三	五	江ノ東部長官
一四	大和南ノ庄根	一二	一〇	三	三	五	四ノ寺
一五	内壁	一三	一一	三	三	五	四ノ寺
一六	外壁	一四	一二	三	三	五	金何所所

五	川ノ南	一	江ノ城	一	休息所	二	休息所
六	橋	二	一	二	三	三	三
七	三	三	二	三	三	三	三
八	三	四	三	三	三	三	三
九	三	五	三	三	三	三	三
一〇	三	六	三	三	三	三	三
一一	三	七	三	三	三	三	三
一二	三	八	三	三	三	三	三
一三	三	九	三	三	三	三	三
一四	三	一〇	三	三	三	三	三
一五	三	一一	三	三	三	三	三
一六	三	一二	三	三	三	三	三
一七	三	一三	三	三	三	三	三
一八	三	一四	三	三	三	三	三
一九	三	一五	三	三	三	三	三
二〇	三	一六	三	三	三	三	三
二一	三	一七	三	三	三	三	三
二二	三	一八	三	三	三	三	三
二三	三	一九	三	三	三	三	三
二四	三	二〇	三	三	三	三	三
二五	三	二一	三	三	三	三	三
二六	三	二二	三	三	三	三	三
二七	三	二三	三	三	三	三	三
二八	三	二四	三	三	三	三	三
二九	三	二五	三	三	三	三	三
三〇	三	二六	三	三	三	三	三
三一	三	二七	三	三	三	三	三
三二	三	二八	三	三	三	三	三
三三	三	二九	三	三	三	三	三
三四	三	三〇	三	三	三	三	三
三五	三	三一	三	三	三	三	三
三六	三	三二	三	三	三	三	三
三七	三	三三	三	三	三	三	三
三八	三	三四	三	三	三	三	三
三九	三	三五	三	三	三	三	三
四〇	三	三六	三	三	三	三	三
四一	三	三七	三	三	三	三	三
四二	三	三八	三	三	三	三	三
四三	三	三九	三	三	三	三	三
四四	三	四〇	三	三	三	三	三
四五	三	四一	三	三	三	三	三
四六	三	四二	三	三	三	三	三
四七	三	四三	三	三	三	三	三
四八	三	四四	三	三	三	三	三
四九	三	四五	三	三	三	三	三
五〇	三	四六	三	三	三	三	三
五一	三	四七	三	三	三	三	三
五二	三	四八	三	三	三	三	三
五三	三	四九	三	三	三	三	三
五四	三	五〇	三	三	三	三	三
五五	三	五一	三	三	三	三	三
五六	三	五二	三	三	三	三	三
五七	三	五三	三	三	三	三	三
五八	三	五四	三	三	三	三	三

本編所記著大條件指示

アブラハムビワライン

馬子焼レシトシテ火中ニ立フ

アワケラン

岡崎

アクハス十一歳ニシテ一男ヲ養フ

アキヨマレ

アクヘイン

アゲワト太陽

アゲルセイニシテ南化ス

三五

三三

三三

二五七

八五

二七七

一七二

三六九

二五八

一三四

アタルガテース像

二五八

川本高貴婦人ノ風俗

三三七

アラフアロンランフリス

一九

埃及國人吊々該地書體

三二六

該國ノ併

二七七

倭ヲ令シテ禮拜ス

三三一

又スキエラビラス如何ニテ成仰シタルヤ

一八八

信ニ難キ高價ノ積齒

一三四

日本ノ倭ヲ尊崇ス

一一九

其縁由

一三六

倭ヲ信仰スルハ最も古クシテ諸州ニ蔓延ス

一一三

倭ハ内部外部共ニ人ニ似タリ

一三五

劇甚地震

一〇八

江戸地震

二二五

長崎地震

四〇八

地震日本ノ記

一〇三

アラトブアコウ

一〇三

地震ノ種類長短又ヒ前兆

一〇四

地震損害

三〇三

地球圖形

三〇三

日本市街村落距離

日本人羅理宗信仰ヲ禁スル後慨歎スヘキ情態

人ヲ姓ト肩コ件ニ奉ス

アグエエエスラ

日本ニ於テ不慮ノ難ニ遇ス

アグウコラ磔刑

明石 日本書

同地大地震

アムブルトアラスタリラス日本使節ヲ饗應ス

歴山王埋葬

アレキヤンブルアリギニラス日本使節ヲ法王ニ進ム

アレキウス平兵衛其ナリ共ニ殺サレ

アルムンヒユスアルビユキユトリルキユ工修業

アルムンヒユスベルツナ切実

葡國國王アルムンヒユス無弗和仇洲創見

アルムンヒユスバキア大旅行

アルムンヒユス日本書

アワグティン

アワグティン行状

アルヘリユスアムンラス

一〇〇

二〇〇

三〇〇

四〇〇

五〇〇

六〇〇

七〇〇

八〇〇

九〇〇

一〇〇〇

二〇〇

三〇〇

四〇〇

五〇〇

六〇〇

七〇〇

八〇〇

九〇〇

一〇〇〇

一〇〇〇

亞媽港島

三六九

天草ノ船積宗徒

二一四

叛亂ノ通議ノ原因

二一九

宗廟信仰ノ爲ニ三國火刑

二一九
二二四

天草候信長ニ抗ス

一五六

埃及國王アマシスレシラニ渡ル

一三五

アラビヤ

三六九

アラブコシラス

一一八

アラブコシラスニウナタユスフイシユミラス

日本ニテ埋葬ス

二一八

亞墨利加通民

三一三

亞墨利加ハスビラウス旅行

★

北方亞墨利加ハ甚ク利農

三一〇

日本佛河彌陀幸福ヲ興ス

廿九

江戸ニテ寺

三一三

蓮生河彌陀

一一三

佛像敵様ヲノ

一一四

法書ノ式

二六七

厄ノ崎 日本市名

二七六

アラモニシテシ驚クヘキ信仰

二五七

寺國寺道變屠死

一八九

アニコレ人山ヲ殺瑞リス

アバスタルフレテレリス

アングリリスアウシラス

激浪ノ底ニ漂流

長崎ニテ碇刑セラレ

大坂船路

志馬

江戸港行

江戸馬

將軍舘見

江戸出度

再ニ志馬ニ馬

諸所遊観

志馬出度

帰路

日本少将アレブル

尚シテ取換案内ヲ日本江渡ニ来ル

如何シテ日本ハテ教化シタルヤ

アニアシ街

アシニハル騒動

二一〇

二〇三

二〇九

三二五

四四

六六

七六

八八
八四
九八
一〇三

一一三

一三六

二四八

二六〇

二六九
二七九
二七九
三六七

一六

一六一
一四七

一一四
一〇四

三三〇
一〇九

一一五
九八

一族悉歎

アレタハメワベ不思議ノ元

アレテイバラス悉歎

アレロニラスアブララス

死シタルアンテイバネス

アレロニラスアレンブルノムルシリ日本將軍江ノ使節ナリアレロニ
スアリシラスニ代ル

アレロニラスビユクバビユリラス日本使節ナリ

佛蘭西モシニワキ大旅行

アレロニラスガリアニユス

アレロニラスハンブルク

アレロニラスモク

アレロニラスベキソフト

アレロロモルビイテシ 昔時宗門不信仰者

アロビユス

アレシユキヤマ日本新街

アビス佛ヲ以テ外國領地

ヨロヒア

此名ノ起源

アキルロテシピキユス

一六三

一六四

一六三

四五一

八九

アレロニラスアレンブルノムルシリ日本將軍江ノ使節ナリアレロニ

四四

二五

一九

一六

四三

一一

一四

三四

二五

七六

一一

二五

二五

二〇

アガロロニウスタイアネウ入註讀覽

秋田 赤名 一三五

明船崎軍儀長ヲ裁ス 一五七

其身誅セラレ 一六一

五刑伯人遺意 一五八

有馬ノ奇談 一八九

羅瑪基督宗ニ托ス 二三五

其候殘酷 一九八

アリマニラス 二五二

アリマヒス磔刑 二〇三

アレイ 八六

該地域廟堅固 一九六

アリスロバネス 一四五

アリスラウスノ何故神ニ崇敬スルヤ 一八二

アムラミシヤ女王 二五八

アムニコトシ 三一三

明石掃部剛勇激戦 一九〇

アセピアテス 二五七

アスタワリヨトセフノ事 二五一

浅野澤山 一七九

アスニヤ 日本市在

アサヒ 太陽

熱田宮 日本市在
村木多し

アタナシラス キルセリユス

アテニ シセハス 親王ヲ神ニ祀ル

アトリ ウラス 残照

又那赤街 アウセオニテ 練兵

アラキ ユスヲトホシモシニツテシテ 荷メテ 又那ニ来

何故 ニ此所ヲ選キセケルヲ 深サルヤ

マニラ 帰路

アラギ ユステイン 津島殿 ハ内府様ニ托ス

領地 肥後ヲ失シ 四八ハナル

府苑 墓給及ニ 摩理ノ 冑像ヲ 培テ 祀ス

宗門 ノ 徒之ヲ 誅ル

其地 頑固 強クヘシ

アラ ナア ヌメフニシツキ

大坂 川ハ アラスニテ

アツ ナセス

バール キルデリシ

バール セヒナノ 馬場 四良 在 街ノ

二五八

二五八

一九六

一一九

一一三

一六三

二〇九

二〇八

二〇九

二〇九

二〇九

一八五

一八六

一九〇

一九〇

一九〇

二八五

二八五

二八五

二八五

二八五

二八五

日本浴場

在モ奇ナリ

ハラダサレモウセロシ

ハヤサハブサ市街

ハレムノパンガラム哇王ヲ逐退シ

ハルロロメラダイアコラス真聖崎ヲ創見ス

日本ニテハ木材不産

獨逸國軍神バサウラ

ハシラヤハ残積

東山土ノ都魯伯帶比亞

何故ニ此録アルヤ

何ハハ此者シ興ノ此地は軍ヲ向テスルヤ

伯帶比亞ハ根元何國ヨリ移リタルヤ

彼等何所ヲ最初ノ住所トスルヤ

猪ノニ世々ハ根

ハノヤハハヤ

獸類ヲ登臨ス

暹羅ニテ甚メ珍ラシキ漢籍

日本ニテモ同様ナリ

埃及人ノ漢籍

二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二

二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二

二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二

二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二

二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二

二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二

二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二

二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二

二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二

二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二

二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二

二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二

二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二

二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二

二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二

二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二

二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二

二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二

ヒラシユルケユル生ラタム

一七五

アラシユル港

一一三

日本劇場悲歎歡樂共ニ極テ巧ナリ

一一四

往古ワルスフラーレシゾロ高シタル勇者ボクニオカクナクエス

一一四

日本ハハ書籍ニ富ム

一一六

難題ニテハ書ヲ列スルニ極テ善シ

一一三

野牛ハ神使ナリ其縁由

一一九

婦ヤ自ラニト定堪ム

一一〇

カ日ニ因番ハ大ニ珍重セラル

一一二

オレラシシユス

一一〇

日本國ノボム

一一〇

オミレカクハ磔刑

一一〇

オノニトシレ大地畏

一一〇

日本貴人奉行

一一〇

日本盛祭繁クハシ

一一〇

日本坊主

一一〇

夫院ノ全紳系ニ納ル美鹿

一一〇

何ハカニテテ敬シ何故ニテテ敬スルヤ

一一〇

神傳ナキカ如キ坊業系ニ敬奉シテ磔刑ニ處セラル

一一〇

信長ニ敵對ス

一一〇

親實ニ遊フ

一五四

羅瑪京ヲ訓誘ス

二六四

其政業

二六〇

宗吉先凶ナルセ

二六六

坂村酒席ニ當リ

二六二

稀ニハ嚴ニ精政スルヲリ故政ノ者ニハ墨刑ヲ加フ

二六二

經文誦讀和調ナリ

二六三

悉クヲ政シリ

二六三

富貴ニシテ死人ナル家ニ親シク

一八九

清留宛ノニ遊フ

二六八

印土ハ島ヲ謂フ

一二〇

怪木

四六

支離ニテ大樹人語ヲ成ス

一一九

汶羅

三六九

王ノ血ノ森

七六七

次ハ上ニ建築ス

二八九

武厄崎山

三八九

日本ニテ羅瑪京徒ヲ次刑ス

三三三

ツラミネス

一三〇

死ニ就テ覺悟

八九

火山

日本ノ風習他々焼ク

穴入ヲモ焼クイアルハ何故ヲヤ

避災庫

ブラシルハ河八カ之ヲ別見シヤ

此國ニテカバラヤス業造

日本諸侯ヨリ法王ニ書簡ヲ贈ル

日本書簡ノ習儀奇ラスルニ餘アリ

有長ノ橋

日本結俗神

日本牛

日本八切腹ノ習儀

豊後八氏

豊後殿殘酷

奉行

其従者希ニ行装

ブラ記漫

文明譯官カブスヤロヒキナリ

カビム戦生類ヲ見ル中極力ヲ現ス

カボラズカネエヌバラヒセハ何人カ此杯ヲ酌マレヤ

二二
一四
一四
一四
一四

二二
二二
二二
二二
二二

二二
二二
二二
二二
二二

二二
二二
二二
二二
二二

二二
二二
二二
二二
二二

二二
二二
二二
二二
二二

二二
二二
二二
二二
二二

二二
二二
二二
二二
二二

二二
二二
二二
二二
二二

二二
二二
二二
二二
二二

二二
二二
二二
二二
二二

二二
二二
二二
二二
二二

二二
二二
二二
二二
二二

二二
二二
二二
二二
二二

二二
二二
二二
二二
二二

二二
二二
二二
二二
二二

二二
二二
二二
二二
二二

カシハツリロ

かや大地

麿島

羅通宗叔ヲ信ス 何故之ヲ信シ又思々度山シメルヤ

城下ノ置況

玄都外観音堂

参詣群集ス

焼夫ス

塚ニモ一者アリ

観音多預ナルアリ

観音ノ像

カンスワイリノ界

即禰徒ノ謀計ハツケラ取

カレギユラフ

カレバクミニヒユ前使徳母

カウカニチリス残能

カウサレノ男子其母出産スルハ即産ニ在リ

カスバルコルタニエノ旅行

カスバルヒレシラ

此ノ一語

二四四
八四

二一四

四三六
四三六
四三六
四三六
四三六

一一六
一一六

一五四

三九

二五五
四四四
四四四
四四四

七二四

一八八

一八八

一八八

二四三

二四三

一八三

三〇三

一八

九九
九一

日本ニミナノ沿革

二一
二二

呂宋使節ヨリ本國ニ於テ橋梁社景ナリ

九三

呂宋人ハ葡人ハ新世界ニ就テ大辯論

二七

カヨヤ部

一八
一九

新セラレタレ公方ノ官カウオレニ入御館巡幸ノ事ナリ

一八
一九
二〇

秋樹

四六

秋樹記事

七六
七七

鼓ヲ猛リヘキ秋柱

一一
一二

錫蘭ハ何人ノ刺見ナルヤ

一三
一四
一五
一六
一七

錫蘭人ノ軍裝

一八
一九
二〇

カノノ末葉

三

カモ侍像ノ形狀

二五
二六

シヤレツレタレノ政行

二六
二七

シヤレツレタレノ政行

二八
二九

シヤラケエ本島

二〇
二一

茶ハ大ナル効ヲ有ス

四七

鹿寮ハ石名ナル亂置ナリ

二一
二二

其人ハ粉俾セラレ

三三
三四

木村刑セラレ其ノ悲歎

一七
一八

シヤレウ

一七

シシムリエシシテ整クハキハ賊ム

シシムリエシシテ整クハキハ賊ム

史册船

蘭人其商業ヲ好ム

蘭人ノ免状ヲ得テ航海ス

又船長俾使ヲ擧ヘ奇異ナル作業ヲ成ス

史册船

日本ニテ耶蘇宗門ノ進歩何故最初ニハ遅延セシヤ

然ルニ亦ヨリ平常ニ進歩セシ

耶蘇宗門ヲ抑圧國王ヨリ大ニ殺害サレタリ

キリスカツハハ南龍兵西出スリ創見シタルハ何番ノ機密ニ出タルヤ

三セロ

孫前

このハハ徒佛蘭西ヲ取ル

中納言殿田房ハナリ

内務録ニ依頼ス

禁錮セラル

カテハユスルラシキ身體ナリ

カテララテイラシキユアヒハ

テシマシテスノ蝦蟇形ナリ

四四

四一

二〇

四〇

四二

一七

四二

二一

二二

二二

二二

一八

九八

四三

一八

一六

一八

二七

二四

二七

奈良ノ興福寺ハ甚ク稀ナル寺ナリ

支趾

僧幣太金

コトリユス何故ニ自殺シタルヤ

土山

高野ハ王公ノ凶獄ナリ

高野日本寺街

高野ハ王公ノ墓所ナリ

コロシホハ誰ノ名ヲ論シ又誰ハ此堅城ヲ築キタルヤ

弘法大師ハ甚クシキ詭説者ナリ且ツ日本文字ヲ製シタル

日本ノ學者弘法大師

弘法大師ハ坊主ノ所業

日本劇場ノ尊劇又ニ祭鳥誰ノ之ヲ居ニ經ハ其利益ヲ配分スルヤ

金谷

コシゴハ何レニ見ルノキヤ

日本將軍公方孫ハ松別羅瑪宗ヲ信仰シタリ

何故從者夥シキヤ

株々ニ焼ク

高麗人

高麗國

一一六

一一七

六一

一一三

一一

一七四

一七四

一七四

一七三

二六一

七

二六一

一四四

一四四

九

二二四

二二九

二二八

一〇七

一〇八

其歴史

政変軍制

コルネウスハサレルノ謀犯

一六九

一九六

有馬ヲ除キ他地探索

一九八

日本ノ泰事ヲ善クノ密ヲ知リタル證據

一六一

羅薩宗徒リ日本ハノ宗端

一九九

コルネウスオウロブラーテシ字全ノ所置

二〇〇

コルネウスオウロマシヲリ三河蒲原ヲ東明トシ船路ヲ開ク

二〇一

コルネウスフガシテレルシイ

二〇二

コルネウスマイ江ミコトノ所置

二〇三

コルネウスマラリノ利益

二〇四

コルネウスミユロ

二〇五

コルネウスサイル

二〇六

コセキユエシバノ日本人

二〇七

蘭人ノ進項ヲ受テス

二〇八

甚ク仁心アリ

二〇九

氣内シ語リ

二一〇

コルネウスオウロアトス

二一一

日本トテ如何トモ羅薩宗信仰ノ者夥シ

二一二

國姓爺臺灣ヲ取ル

二一三

キユラケユラケ

日本將軍公方御マラシ

其北盤ノノキ死状

如何理葬スルヤ

キユバ別見

日本新基塔街

尊津

ライヤナエクハタハ如何ナルヤ

日ノ去山ヲ下ス

日本大伴

内府軍略

日本執政内府様ニ抗戦ス

收軍城ヲ取ル

野戦ニ於テ大勝利ヲ得ス

毛利殿通達大坂城落ッ

敵ヲ別伏スルニ寛仁ナリ

諸侯ニ常賜ニ駿河ニ移居シ権現様ヲ自筑ス

南業ヲ盛ニシ羅瑪宗徒ヲ逐フ

西班牙ノ威權ニ恐怖ス

羅瑪教ヲ禁シ宗徒ヲ磔刑ニス

一四五

一四八

一四四

一四一

一三九

七

二一七

二

二二一

三三二

八〇

一八四

一八四

一八五

一八六

一八七

一八九

一九〇

一九一

一九九

二〇〇

二〇四

二〇五

兵ヲ以テ秀頼ヲ困ニ嚴重ノ使者ヲ送ル

大改成ヲ添ニ秀頼ノ成所ヲ燒キ秀頼薨ル

大明神大祭

内裡ノ威權振ハス

宮殿

味来

皇后系ニ副化

皇子養育法

黄屋薨

野望ノ状

將軍上洛参内

又國議ノ行装

情者

皇太子ノノ献品 情ヲ又ニ歌書ス

無ノ考

兩戦血ヲ全國ニ洒ル

内裡ニ皇太子威權ヲ示ス

タチオシバノ公方ヲ裁断スルヲ裁断將軍參上

實ニ恐ルニキ殺戮

父ニ一ニシキス

二一

二一

二一

二一

二一

二一

二一

二一

二一

二一

二一

二一

二一

二一

二一

二一

二一

二一

二一

二一

二一

二一

二一

二一

二一

二一

二一

二一

二一

二一

二一

二一

二一

二一

二一

二一

二一

二一

二一

二一

二一

二一

二一

二一

二一

二一

二一

二一

二一

二一

二一

二一

二一

二一

二一

二一

二一

二一

二一

二一

二一

二一

二一

二一

二一

二一

二一

二一

二一

二一

二一

二一

二一

二一

二一

二一

二一

二一

二一

二一

ダリラス高山

一五二

大佛寺大佛像

二四八

ダイマクハ日本ノ一城廟ナリ

四〇〇

難入ダヒワトカスシラス

三五二

日本八犬ノ剣ヲ貴重ス

五

デモクワタユス

一〇〇

世界ヲ總括スル魔ヲラニユル

二五五

ダフハ佛

一三三

ラウユススハ如何ナル物ナルヤ

一〇〇

ライダキユスカルハヤハ羅瑪皇帝六十八ヲ殲滅ス

二五五

ダイヌキユスゴレノイハ日本ニテ如何ナリタルヤ

一六二

チンダレゾ

四二五

タルノフハレワ

四二四

タルノスヌイク

三六四

ロミンゴモシラハ日本ニテ羅瑪皇帝ニ抗スル第一ノ人ナリ

一七七

ハラマレゴンノ祖暴ノ所業

三一

日本ノ死刑甚ク異ナリ

九〇九

日本ニテ茶葉ヲ産ナリ

五

死ニ至ルマニ昏ル時

九〇

トロイテスハ不可解ノ誤ヲ以テ佛ニ事スルハ何故ナリヤ

九七

マールテイボ音納金形し

今エホ山

何人ノ獨逸人ノ元祖ナルヤ

又那ノ魔ハ何様ナルヤ

維クハ誤ラ居ス

魔王 魔者

魔デシキウスヲ欺ノ

牛糞ノ人誤シ居ス

魔ニ奉事ス

魔ハ何ヨリ出タルヤ

同寮ノ應持寺具ナリ

盤廻ス

甚メ古クヨリマノ

シヨメノ村長崎ヲ距ル六里

日本支那雜別法

日本高僧エトラムニシテ

卯ニ就キ日本八ノ説

漢新八埃又ハ其他釋教宗人ノ舊説

エリ日池没

前王上ヤニラル東印上ノ刺見ス

七
七
九

七
九

一

二
五
五

七
七
三

一
三
八

九
九
八

二
四
九

七
六
九

二
五
五

二
五
五

二
五
五

三
五
五

五
五

二
八
八

二
八
八

八

二
四
八

二
四
八

一
〇
四

一
〇
一

島ニ敷船ヲ送ル

一六

寺不ヲ振ラ出ス

一五

英蘭並ニ交テ咬嚼也ヲ革ム

二九三

英國發汗病

四〇六

エレノテラウス及ヒ其ヤ何故天ニ昇リタルヤ

三八三

エルホスルフシキーゲンズ

四〇六

エスワラハ何ナル佛ナルヤ

一四〇

エタオピーン候

一〇

火山エロナ

四一七

其宗ニテハエスルエスルハ

五五

慎多 日本書

一九八

此地ノ奇談

二二

此候何故ニ萬ハヲ發遣スルヤ

四二六

一坊主ハシアレバシキヒラウスル泉論

二六〇

森根山海四ナリ

一〇〇

山上ニ街アリ

一〇一

日本盛太學校ハナカレギレ燒失

一五五

原主ハ殿殿刑ニ處セラル

二三四

終ニ火刑セラル

二三五

坊主不ラゴノノ殺八場ハイトノサイヤ

二六一

八史出 流深人ヲ送ル

日本釋官八左衛門

セリテレシアニシテ鎖港ニシテハセツツ

早舟日本快走船

ヘルジナレトコルニシテ是是号ヲ刺見シ殺サレ

ヘルジナレトマリーケニシテ南海ヲ刺見シ殺サレ

秀木衛六殿

飛騨殿本高孫ノ母ノ譽徳ス

秀頼職侍ヲ奪ハレ

足利將軍職ヲ秀頼ニ譲リシコトヲ歎スレ其切テナルヲ以テ是ヲ危フシ大

御所ノマ塔垣セシリ

秀頼ノ岳足兵ヲ以テ秀頼ヲ圍リ

火ヲ放テ城ヲ燒シ

修理舟祭ス

平ノハ蘭人日本ニ於テ城ヲ領地ニスル地ナリ

記事

城

手三殿

牧方

堀路 日本南各

九二

三十一
四一
四一
四二

六六
六六
六六

二
二
二

四
二
六
四
八

六七

一
一
一
一
一

二
一
一

二
一
一

二
一
一

二
二
二

二
二
二

四
五

二
一
一
一

六
五

六
六

肥前

伏水

肥後 鹿指街ヲ南ク

肥後

ヒラキイノムルヒウノ方 鐵ヲ刺意ス

アコリヲシ刺意ス

又即チ一帝伏義

蟹ノキ噴井

釋迦ノ教典法華經

法華宗

泉意

名簿島記事

寺

高長政ヲ弄シ刑ヲ受ニス

胎児ヲ殺ス

些細事件ニテ史籍雜列ス

家産

祭祀

埋葬

病人ヲ殺ス

信心

誓約

佛

如佛

魔

正ナ

如何ニテ基督教ヲ信スルヤ

日本ニテ如何ニテ像ヲ佛ナシテヤ

佛者

四四〇

四〇〇

二一七

二七七

三

三三六

二四一

二六二

二六四

七六

一一一

三三六

三三六

三三六

三三六

三三六

三三六

三三六

三三六

三三六

平戸を候小イ候ノ仁惠ヲ商人大ニ感謝ス

フランコイスマカロン日本船軍ノ使節ナリ

僧道ヲ遣フ

フランシスキユスマルメイダ

フランシスキユスマカロンクハミカール日本ノ客死ス

フランシスキユスマカールヘテ編造 追補 火刑

フランシスキヤトネシ支那ニ上陸シタル者ニハナリ

フランコイスマレロリスフーニ如何ニテ日本ニ埋葬シタルヤ

フランシスキユスマカロンラヌ南澳ヲ取り崩レ殺サレ

フランシスキユスマカレガナ

フランシスキユスマデヒリトリヤ

フランシスキユスマカロンラヌ日本渡航

日本ニテノ莫大ノ費用ハ輸送ヨリ給ス

日本ニテノ莫大ノ費用ハ輸送ヨリ給ス

所業

水ノ道

何故又那ノ道キタルヤ

概論スル者説被セラレ

意ニ死ス

フランシスキユスマセイモツカ

一一九六

六六八

一二五

一三三

一五八

二三四

二三四

二一〇

四〇五

五二

八

一六

二一四

二二四

二九一

二九七

二一八

二二五

二一六

二一四

フシテリキコイト國姓爺ニ攻撃セラレセイランゴノ城ヲ渡ス

一五二
二六〇
四四三

比叡山青院傳徒殺シ

一〇五

ワシキタマルゴラケユス地震ニ恐怖シテ自殺ス

二一八

店內日本赤名

二一八

北地基翁宗徒ノ旅舎アリ

二一八

通世山日本ノ名山

九五九

カブリーンズリゴノ

二〇七

豪村カシテイシ

二〇九

カスバルレミウス

一〇五

逃走シタノ日本ハ不童再來ス

二〇九

磔刑ニ因釘ス

二〇三

日本ハノ靈魂如何ナルヤ

一〇三

磔刑ノ者杖々ニ燒カシ或ハ野獸ニ喰マシ更ニ通行ノ者モニ陸海ヲ噴キ或

ハヒタ鞭ヲ

二〇三

稀ニハ架ヨリ斬カシ粗履ニテ助命スル者アリ

一七〇

日本將軍ノ政事ヲ監視スルゴノ赤名

一七〇

グムヨノ謹愼

一七二

日本赤名アリキウス

一七八

テオレキユスマルハレコウス

一八六

ブカルクユヌカニタラヌ

三三

グラブルガマシムハルロ盛河等ニ殘酷

一六六

ブルでニキユスノ死ヲ前告シタルキ

一〇九

壹葬

二二一

ゲンロフフンクグーニス

四五六

日本ハヨク法王ノ使節

二〇〇

日本海軍ニハ又特別アリ

二六四

日本ニシテ人字シメル者ノ可驚詭

二五〇

ケリテシハ汝ハヲ以テ性ニ供ス

八九

日本海軍ノ朋友ニ懇親ナリ

一四九

物此ノ親類以テ不思議ノ風ナリ

二〇三

キヤナハハ日本要案ノ地ナリ

一八九

ハツバノ堅城ナリ

一八八

秘國祭

二六六

治初之世ハ伊朝西人ニ及リ基督宗徒ニ名ヲラ殊刑ニス

一七七

軍卒

一八五

橋ナリ

一八六

兄弟大ニ驍捷ス

一八七

屠死

一八八

浪石衛門

三九三
四一八

キーマツ太商極ミノ丁字ニ發進セリ

所五ヲ取ル

所五ヨリ日本へ使者

佛法ニ三種アリ

神ハ釋教宗ニ於テ知ルノキ形アリ者ニアラス

コレサレハスビサレリユス自ラ而露王トナル

權六羅理宗徒ヲ火刑ス

ゴキユイスハ日本ニテ不思議ノ處ナリ

五島

ゴワラニ大橋制

柳所極ハ前ニ日本海軍内府極ト称セリ

ナ三世法王ケレゴリウヌ日本使者ヲ發進ス

希藤ハ何人カ元祖ナルヤ

太陽ヲ算フ

五良兵衛殿

キユエライイマラ市街ハ此ニ廻覆セリ

キユイトテラハスサレテ家内ノ所業

日本釋官銀右衛門大判

日本堅城故事

グイムノフピステレ

一六

一五

二一六

三三〇

三三一

三四五

三四五

二二六

二二七

二八五

九五

六八

二四二

二二九

二二九

六九

四一

二〇

三八三

一八

九七

龍ニ講義ノ書ヲ

鶴ヲ以テス

ハニ佛

ハニ無量ノ成佛者ニシテ

ハニニゴヨウアミン

ハニニハニ

ハニニハニ

日本山法師ハニニホニツ

ハニマニツレニキ日本渡航

ハツハニス残骸

ハニニハニニ人又ハニニ日本ノ祖先

ハニニハニニ神ニ供セテレニヤ

神聖車

釋教徒ハニニ神ニ知ラヌ

日本高貴人ノ權威

ハニニハニス島記事

ハニニハニス多イニ殺サニ

ハニニハニスハ如何ナル帝位ナルヤ

ハニニハニスハロニニニニニニ

ハニニハニスハニニニニ

一六

一〇〇

一八三

一〇二

四三

三七九

四八四

九八七

四二五

一三五

三

二六

五二

三九

一四八

一四九

二二三

一六五

一五二

四〇五

一三四

ノロビイノ残照

一六四

ノロキムシス

一五五

ノスバウセ王宮

一五四

ノアオヒユス

一〇五

ヒノルネイノユスガバアソングレス奇異ナル旅行

火刑

二三四

ヒノロネノユスガバアソングレス

二〇八

ヒノリワキコルネリヌブーシシカノノ漂流シテ日本ニテ捨ル

二九〇

従者ノ共ニ江戸ニ送ラル奇異ナル遊藝ニシテ船ノ書ノ事

陸ニテ浴身入ニシテ遊藝ニシテ夜中ノ遊藝ニシテ坊主詰向ニシテ江戸ニ

篇スニシテ執政ニハノ前ニテ精細向ニシテ裁判所ニ出ツニシテ桃向

附録ノ者一同無益ニ久シク待ツニシテ長崎ヨリ来言ニシテセラアノ遊藝

評定役ノ前ニテ乱向ニシテ遊藝ニシテ日本定ノ手記拾取スニシテ長崎来言

ノ大造ニシテ日本裁官通辨ヲ設マラルニシテ更ニ蘭國風俗宗教ニ向及ノ

何故ニ京徒四ハノ同坐セシメシヤニシテ大ニ痛心スニシテ旅券ヲ轉ノ

其縁由ニシテ直度亂向ニシテ基督教ノ區別ニシテ更ニ一層嚴重ノ乱向

故免言渡シニシテ登壇ニシテ燭眼ニシテ

ヒノリワキハノゲナリニ日本將軍見ノ底旅行

不慮ノ家事

九七

ヒノリワキハノゲナリ

四三〇

ヒノリワキインデーキ長崎来

四〇六

日本八箇ハノ底ニ通ノ京叔ヲ知ル

江戸へ出陣

紅毛品

諸侯ヨリ丁寧ナシ譽德ヲ請ク 將軍請見 玉座仕嚴 噴眼請見

再々長崎ニ向リ 一河無事ヲ祝ス 長崎歸焉 口々ノハ未書ニ

國性而襲撃ノ状ヲ敷ス 銅ヲ購求ス 國性節ノ海船ヲ掠ヒシニ

不右衛門談判ス 此兵衛殿未訪ス 四二五

葡王ナリシリヲキテ四世ハ新却受見ト熟下ス 九

ノココキユスカヤジユス術法 一五

女佛ノヒタス 七七一

ノココキユス魂魄轉移ノ説ヲ敷ス 一三

日本娼妓 三二一

江戸市外園遊 三〇三

河蘭水更胸載セラル 四〇三

整ッハキムナン園 三

犬ヲ神々崇ム 一三

何人ノ何故ニ犬ヲ磔刑ニスレヤ 二〇一

犬首ヲル佛 二五五

人ノ首級ヲ珍視ス 三七八

斬刑者ノ首ニ神事ス 二五七

東印土商會本社 一六

日本大學校 一一六

甚々珍らしき小園 二六

北條幸房

三九六

侍臣殘酷ノ状

一四八

日本王城皇記

五五

日本結城式ハ知國ニ比スルハ甚ク華奢ナリ

三七二
三七三
三七四
三七五

ヒユツトソノ旅行

三一

ヒユゴゴロタウメ談

三一三

ヒユゴライルロラグレイ

三一〇

日本家作

五五

ヒヤンシタユスオレハルニ十六時向火刑ニ耐フ

二五三

ヤカヌイノ妻

二八六

凌辱地王宮 五ニ戦獲

二九

ヤコツパカーセンブロート

四二五

ヤコツパカーラウ一船ヲ奪取ス

四二六

ヤコツパスハシネツキ

一九

ヤコツパスシメ

一〇五

陸軍近ノ子ヤコツパテシセルニス 陸王カナル 左ルカニカールノ寫 三三

日本基督教徒ヤコツパバウラニ歎願ス

一九四

ヤコツパバウラノ字ヲ手ナリ又思議ノ商賣ス

二九三
三〇一

ヤコツパバウラノルキ旅行

三一〇
三一

ヤコツパソノワラナク

一五七

ヤコソパス。ハツキの帯比五戦の事

日本領軍ノ使節アリ

九三九四九五一九六一九七
一九四一九五一九六一九七

皇後侯羅理教ヲ宣化ス

三二五

何故ニ争論シタルヤ

事ヲ雜列シ

洗禮ヲ行フコトヲ示シキル

スロ杯ス

本國ヲ去リ

羅理侯侯ノ爲ニ新術ヲ南ノ

國ニ傳ハ

死去ス

二一七

日本山法師處ヲ驅ル

又思議ナル所業

紛失品ヲ復覓ス

病者ヲ

穴愈ス

九六

地獄ヤシマロコシ

一二〇

ヤシマロコシムフーレクローシ

三二九

英ハハ戦ヒシテ近代ニ侵略セテ取リ

三一

ヤシマロコシムフーレクローシ

二三二

ヤシマロコシムフーレクローシ

四三一

日本記事

四八五

言語

文字

郵局

衣服

禮式

相及ス

王公

神官

僧侶

市人

職工

急死

惣テ吟例ニシテ各ノ階ノ

二八四

美談

耐志

守戒

死刑

加服

輕死

傲慢

二八五

石垣城守

清境距離

國郡分派

周回諸島

大小廣狹

二八六

之ヲ知ラズ

政法寛仁

羅理侯ヲ採用シタル緣由

二二五
二二六
二二七
二二八

日本領軍或人巨額

二六六

武家 桑奥 内裡分内 華美ヲ 二八八

都鄙路程 穉弟ヲ外人ヲ遇ス 高貴婦人ノ衣裳 二八八

遊技 南ノ衣裳 志保信ノ深學 信ニ無神ヲ領解スルコトアリ 二八八

婦人ノ奇偶ノ 女子共ニ刑セラル 小児而刑ヲ免カス 二八八

既始ノ衣裳 好尚 偏狭ノ一種ノ異語ヲ使用ス 諸侯生計 二八八

武納質大 僧家 己手 農夫 其信心 可剛信心 二八八

大學校 小兒教養法 四種ノ文字 泐紙 南ノ美裝 二八八

細君ヲ尊敬ス 侍婢 二八八

日本人ノ信心ハ頗ル羅瑪人ニ似タリ 二八八

日本人長崎渡来ノ蘭船廢置 二八八

日本人異同ヲ究探ルコト 九〇

兒童ノ生頃ヲ追憶ニス 二二七

日本人元来又那ニ出テ又難題ニ入ル 二二七

日本人島行又那及ニ他ノ人民ハ相及スルアリ 二二七

日本人何ノ時代ニ又那ヨリ来ルヤ 二二七

日本人他ノ他邦ニ使者ヲ送ラス 二二七

日本婦人ハ貞三男子ハ放縱ナリ 二二七

日本人ハハノ神リ及ス 二二七

平常ニ面白キ遊藝 二二七

日本人言談勇壯ナリ 二二七

日本人甚々吐重ニシテ是是哥ニ渡航ス

羅理ニ到ル 帰國 舟来

日本書簡

日本古事記版拾遺

ヤマトノ後成

山陰記事

ヤマト及ヒヤニユリノ何故ニニ為ナルヤ

山陰人伯帯比羅ヲ聞ク

一向宗ノ坊主ノ醜行 祭典驚クノ事

江戸都成

家産

坊街

佳氏

河流

橋梁

神社

佛南

郵券

大火災

羅理加精乃宗ニ抗スル所業

江戸ノ長崎ノ距離

蘭使渡来

死者ノ神工示シ

羅理加精乃宗ニ抗シ甚々強暴ナル様由勘兵衛

江戸ノ村奇事

伊勢

江戸

一九三

二二〇

一七

一四

二一

三四

二

三一

二七

一一〇 九三 九四

三五五 三三〇 三二〇 三二〇 三二〇

二二三 二二三 二二三

一一〇

一一〇

三三二 三三二

二三四

九九二 九九二

四八一

四四

日本ニ接界スル坂夫

土地未開 八州可也

耶蘇宗徒ハ如何ニテ能ク日本ニ於テ禁地ヲ行フヤ

如何ニテ板世主ノ獲生ヲ祝ムルヤ

博多慶島大村父ト子トコ多人渡来ス

何故日本ヨリ羅瑪法王ニ使者ヲ送リタルヤ

日本ハ巧妙ナル机端ニ因テ大敵アルヲ知ル

此輩如何ニテ其信心ヲ存セシヤ

日本ニ向テ及ノ船教導ヲ漏タリ

大坂ニ於テ一天主堂ヲ建ツ

日本ノ叙事ヲ探悉ス

都ニ帰ルノ免許ヲ得

宇土成シ歎スル及ニ力ヲ盡ス

日本ニ帰ル及ニ再ニ笑事ス

日本ノ得遇甚ク賤賤ナリ

何故ニ日本ニ捕ハレタル人ノ耶蘇徒放免セラレタルヤ

恐レハキ因獄ハ江戸外ニモアリ

一向宗ノ坊主ハ本ノ氣概セラル

イコト庄三郎

磔刑ニ處セラレタル至イナリユース

日本國內ノ戦事ハ甚ク惨酷ナリ

イコガム 運マ

舟上記改書録

イコス

不河伊九衛門殿ハ菊田ハヲ強殺スル職免

イシタラバトハ何ノ侍ナレヤ

カマレホスアレビエタルノ信

ヨアレホスバゴクヌスメリモコレニユリスハ敵ノ羅瑪宗ノ條列ヲ學ブ

ヨアレホスカス采アハ紋織ノ宗大ニ其子ノ學ニ載セリ其録由

ヨアレゴリセリヨレ

ヨアンコルネリスゾーレノ旅行

ヨアンコウレンス

ヨアンダロード旅行

ヨマシユルノラウソ功績

江戸ニ来ル 登城 菊田ハヲ保護ス 江戸出陣 大坂ニ来ル

更ニ旅行ス 長崎島

ヨアンホスノルナレデモ羅瑪宗ヲ日本ニ宣化ス

日本ハノ抗論ニ因テ体面ヲ喪フ

ヨアンヒキス 寺屋ノル茶煙

ヨアンホスアラレシムキユカカハライ

一八九

四〇

三二五

二五一

二九六

二九七

二八九

二二

二三八

三二七

三二八

三二二

三二二

三二二

三二二

三二二

三二二

三二二

三二二

三二二

三二二

ヨアシニス権左衛門死刑

二四五

ヨアシタリユバ

一八三

ヨアシイゲンシヨリシヌコト

五九

世宗シ一國シテ航海シタルヨカシラユス

八

ヨアシノヒユス

一六

ヨアシオオトリゲニス

三二

ヨアシバタユス

四二

ヨアシバトリユスオノヒユス

四三

其日本紀行ニハ誤多シ

五八

前ヨアシニスニ世新邦アルヲ知ル

一九

前ヨアシニスノ世サヒリウノ名ニ彰シク日本族ノ統

二一四

ヨアシノキコトユスデシオコハ如何ニテ

八四

ヨアシオノセ

二〇六

リマキニシ

二〇七

ヨアシノシヨリイテノ奇異ハ鹿ナリ

三九三

ヨノ血統

二五七

餘方河

八

襟川ニ羅リタルヨアシ

二〇三

興出橋

三七一

定日本

三九六

三九七

三九八

三九九

四〇〇

ヨロシスグーサレハ何ナレ侍ナレヤ

七〇

ヨロシスターヂバイノ悪魔

七〇

池田候儀殿ヲ攻ム

一五〇 一五〇

ヨリヌクロク

一〇五 一〇五

ヨセノ姓ヲノ形ヲ現ニ働任ス其縁由

其妻

神ノ崇メラレ

三五〇

赤田 日本市々

八五

ヨロセフアコスマ

一〇〇

イサメイ職業

一〇〇

伊左衛門

一〇〇

板倉田良木衛門殿

一八五

日本ハハる耳期ニ患備ヲ振キ祭ヲ致ス

二二〇

ユリヤニユハ中浦死刑

二四〇

羅瑪帝ユリヤマヌ

一一〇

ユリユスクーニハワルヌフラニレグニ地ニ平常ノ獨難ニ羅

一四〇

アモシ天神

一三〇

ロニーユース

二〇

ユラコニニ 或市建築奇異此處

其致壞

一七五

日本ノ小地圖

三〇五 三〇五

日本嶋軍裝師華夷圖ノノ

三〇五

咬留吧後ニ俗帯比更ニ改紙ス

二九〇

日本遊藝

二五九
二六〇
二六一
二六二

博徒

三六八
三六九

讚岐様

三七九

教習長ハ何ハコトヤ

二五

日本ノ燕ハ御常ニ華美ナリ

一四一
一四二

駝鳥

二七一

猫ヲ神トナス

一三九

河内殿羅瑪カ精ヲ徒ニ於テ残刑ニ備取シモク燈漆セシ

二三二

信者ヲ棄テ天下ニ流散ス

二三八
二三九

蘭ハテラレシ成ラ取入

四一

日本回獄

二四九

日本八咫ノ小児ヲ殺ス

二八五
二八六

小児ヲモロリニ埋メ居ス

二五七

正村ノ深科ニ産生ス

二五七

如生ノ子

二七六
二七七

年ヲ奇異ナル時確

九五

傳卷記事

一三三
一三四

日本奴僕主ハ一為ニ自殺ス

二八九

出島屋敷日本ノ如何ナル奴僕ナルヤ

二八一
二八二

フーエラレシニ在リ日本八ノ奇談

四四七
四四八

クインランドンラレル日本福軍又子と法参内入使儀ヲ觀

二四二 二四二 二四二 二四二

小氣 日本者名

二六六 二六六

日本ニ於テ南事

四〇二 四〇二 四〇二 四〇二

日本度量 貨幣

四四四 四四四 四四四 四四四

コレルコイル 外紀

二九二 二九二

サレトスノタラシク 地名

二六九 二六九

甲子産産ニ就ク

三一四 三一四

クリーワシ 樹墨性

三七七 三七七 三七七 三七七

鯉魚 或ハ貴重セラシ 或ハ身現セラシ奇哉

一三〇 一三〇

十字架ニ上リタル改新ハ希羅人獨造人何カ河人如留カ人

二〇二 二〇二 二〇二 二〇二

十字架相異ナリ

二〇二 二〇二

日本ニ行ハル者ハ希羅羅漢波斯及ニ至身如カハ異ナリ

二〇二 二〇二

日本ハ何故ニ羅漢カ精カノ十字ヲ裝用スルヤ

二〇二 二〇二 二〇二 二〇二

祖老何ノ以テ十字架ヲ考成セシヤ

二〇二 二〇二 二〇二 二〇二

日本ハ何ニ因テ十字ヲ作ルノヲ學ビタリヤ

二〇二 二〇二

日本ニテハ其画像ヲ横行シ

一七二 一七二

是ニテ如何

二〇二 二〇二

譯官去兵衛所業

三〇二 三〇二 三〇二 三〇二 三〇二 三〇二

ラビニユス

一四七 一四七

佛像ヲ拜スル宗教ニ南ニテラクシクヤユスヒルニユス

二〇二 二〇二

漆 其堅くへき成立

ランこユイ 魚佛

羅門人ハ何人ヨリ出タルヤ

多興ハハ戯誌者

ルーレンスシヤコレ

ララレンス井

長崎市郊ニアル寺院ラサリユイ

レジオシユイ 丹主

レカ勅右衛門行業

文字ハ誰ノ發明ナルヤ

獅子ニ神事入

リビキナ サ佛

リブルハ何故ニ神ナリトソ珍重セラルヤ

艾那ノ強賊リマホシ他ノ強賊ウイシロキヤハラ撃テマニルハヲ罷入

賊軍 船隊ヲ焼ク 巧ニ固ミテ潰シテ備ル 終ニ身死ス

長崎出島記事

郭欺スル者ハ死刑ニ處セラル

ヨリバワギ

リムカヒユス

リユシユスニユシユス

三二

二五

二

一四

二七

二八

四九

一六

一九

一五

四三

一八

二二

二〇

五三

九二

三七

二九

二五

ロテラエリキワルメイダ

一八

ロテラエリキフワユス

一五

バガレルリナノ那獲宗叔ノ論

六〇

壽事 日本僧正ノ成シタル説

意見終ま相子宿ス 三八九二四三七

日本人ハ如何シテモテ學ヒレヤ

二二二

ロテラエリキフワユサ

二〇五

ルタニル

二七二

リユピユスフツタユリスロシテホテ著明ナル功績アリ

一三一

リユピユステリヤノ思慮ナク本意撮ニ使聘セリ

一三一

リユスコリハ如何ナル術坊ナルヤ

二五九

高麗ナル山賊リキニグブス

四四二

倭列ノ敗走

四二

レトフラレバ八地ニ神事ス

二五四

日本ニテハ高麗ノ成シ満過ス

一一八

大藤ハ何ハノ成ニ美ニ何ハノ成ニ悪ノ成ニヤノ縁由

二三三三五八三五九

何ハナルハ一請築タスニ保タルヤ

四三八

註重ナル日本藤儀

一一五一一二

燈理ニ於テモ亦然

三九三三九四三九五

亞細亞紀行

三五

此使ヨリ日本ニ来リタル使節殺サレ

二四三

日本ノ甚ク不キナル癩病人

メシヨルニユグホリ日本ニ於ケル所業

メシヨルサシロホールノ職業

奇異ナル編難

メフレバ街坊

メシボース

メシテシロノ奇異ナル習俗

食人島

人化シテ魔トナリ又神トナル其縁由

メサバツテス

メフホタローノ城市

メトガマ奇異

メワリ日本奇名

メゼンチユス果産

宮日本奇名

京都火災

奇異ナル橋梁

サロリウス志々都ニ属ス

市中記事 南業然沼

羅馬法王ニ使者タリシミシヤトシシカ日本入客路

九五

二一六

二二八

九九六

一三

二五二

一三〇

四九五

一八二

一六五

四四九

四四〇

六八六

一六六

八四

一五一

二六八

二一五

一四三

二〇二

二〇二

七三〇八〇一三三

ミシヤールコエラシユース

三〇九

幕府に強敵サレタ中島

二二五

ミシヤールロヘスラシガスビト答

二〇五

二〇七

ミシヤール庄三郎

二四五

日本將軍ノ地御堂

二四六

城ノ漆ヲ造リ奇話

二七八

二七九

美作傳説ヲ文治スル縁由

二八八

水ノ市色

二八九

ミシヤールノ寺院ヲ京都外ニ建築スルヲ免ケル

二九二

支那明帝

二九九

ミカ殿公方ヲ討シ 誅戮セラレ 驚恐スヘキ戦乱ヲ曠ス

一四二

願勤ハ如何ナレ侍ナルヤ

二二一

三島

一〇〇

ミ入り

三

ミテラ太陽

二五八

ミナリタキス奇石

二五八

ミツライリ

二五八

現物日本市名

二五八

ミネライス祭牛

一一九

二五八

高野山大和南新館

一七四

危難ナル外記

二三

モロノミルコト本陽ニ神事ス

二五七

モシバサノ市名

一

僧侶善宗教ヲ日本ニ宣布ス

一三二

モシゴト大虚無道

二三

一童十奇異

二三

モシサキヤノ所業

一三

甚ク恐怖スノキ殺戮

三

信ハノ后ニ自死

七七一

日本ニテハ如何ナスヤ

八八

毛判殿

二一九

日本ノ廣盛毛判殿撃タル

一七四

内右様ニ對シテ怯懦ナリ一八六
大坂城ヲ支那ニ送ル
切手ヲ殺ス

一九〇

モセスハ何故ニモセゾノ區統ヲキヨリクヤ

二五〇

理月庄兵衛殿蘭國人ニ從屬スル職務

二九七

モサレビノ市街

一

印出ノ大草或ハ氣散セラシ或ハ輕蔑セラシ

一三三

日本貨幣

四四四

室

六六

ミムチユスヒラシキユス

三三

礦山證ノモリ刑見セシヤ

印本諸地海濱ノ各紙ハ何ヨリ取マレヤ

日本八三回改紙ス

紙跡更改ハ何ニ因ルヤ

ナカニキエトニハ奇異ナル契物ヲ用ル

南朝日本市名

長崎ハ何リニ航スルキヤ

南事規則 五三 街坊記事 五五 家屋寺院 五七 凶性時 五九

御換宗寺院 三九 甚ク驚恐スルキ殺害 三三 町敷 二四〇

薩八南南法 二八二

ナカニベギユノ奇傷ニ罹リ死ス

ナサユウハヤカトラニ對シテ整定ス

ネクハル

ネコバタム市名

培ナ衣袋 培俊ノ異様 南業

ネハ羅理城ヲ焼ク

魯慮 其地カバボアノ可驚奇袋

ネラゴリ坊主ノ奇異ナル出業

山城ヲ居ス 三三 三種ニ區別ス 全ク此界ノ奇異ナル方便

ニヒトエシス王ノ功業

三〇五

一五

二八九

二一九

二四九

二九四

三〇九

四四

四五〇

三〇

二五五

四三

四四三

四四四

一五

二二

一三三

二二二

一五三

キユラノ主教僧 コラノ功業

コラノアナンカノ高ラ例懲破刑ニ履セリ

コラノユモユ

コラノキル

コラノブ

コラノ

新築ノ廟

ニキ

日本大加

日本

新築内

ノ

新島

日本

神ト進軍セラシ 有像ラ者内ニテ遺ス 世農ナル宮殿ヲ再建ス

貴童ナル者堂ヲ建築ス 御殿ヲ公方ニ爲ス 上流ヲ焼ク

御殿ヲ固クシテ御ノ自ラ勝軍ナル 坊主ヲ討伐ス 寺院四宮宇

ヲ焼ク ハクサレギン堂ハ抗敵ス 信玄書ヲ寄ルニテ啓ス

三ノ

北方ノ人ハ何故ニ太陽ヲ集奉スルヤ

二五九

二四一

四二二

一三三

一三三

三〇九

一三三

一三三

二六九

二七二

二六九

一三三

一三三

二三二

二五八

一五九

二五九

一五九

一五九

一五九

二五九

ノハゼムブラーハ誰ノ愛明ナルヤ

三二〇

沼谷松久衛門使ニ應接シ命ヲ傳フ

二四三

又トエルカラレノ時酷

一六六

トユリユリシレヒスノ時酷

一六九

埃及ノ豊山ハコトル河ノ濱長ニ因ス

二四一

オビニハム

四四八

岡崎日本有

八五

奥州ハ如何ナルト云ハルヤ

五八

采女殿

三九八

オエネリリ紀行

四四一

大傳

八

選羅議官オヤサハルヤ

三九四

東州塞議官オヤサ

三四

向象ノ貴重ナルヤ何故ナルヤ

九

兼ハ軍中ニ於テ甚ク強猛ナリ

一一九

暹羅

一三三

性質

一五五

又那水師提督オモレコノ功業

二〇九

西班牙ニ對シテ不守ヲ懐ク

二一九

大村候ハ羅瑪法王ノ信ヲ傳

二一九

火カ

二二五

未々著明ナラサル世界

采女殿儀

府内

大御所太皇太后政界ノ南極

諸次ノ議官ノ控訴

東印エハ太陽ヲ儀奉スルノ爲

例懸磔刑

オアビトラコ地ノ使

オアビト

橙島

織部殿ハ羅理ハ精カ宗徒ヲ虐害シ墮落セシ

オリスモ温泉

オリケル勘九郎ハ叔業ハニ勤メハ行業

オロクホリス島

オロマスデ

大政ハ山嶺使ヲ觀ル爲ニ群集

市街記事

庭園ニ改メラレ

大地震

大政城ハ嚴禁シ

六

二四九

一〇九

一七八

一八一

二五九

二四三

二四四

二四四

三一

一八九

四一九

二九五

三〇一

三二〇

二七

二七

二七

二七

二七

二七

本向様ニ頼リ盛大ナリ

其志ヲ取レ可ラサレニ尚兼取ナリ降伏セリ

思牛

東印土諸地貿易

神事サレタレ牛

奇異ナレ牛奇

牛ヲ神リスレハ誰ニ欺マレ且ツ何故ソ

諸釋教人ニ神事ニ其内ヲ食ハス

悪魔ヲ使フ者ノ長カスレバメス

本田備中様

乙名日本長崎出島ノ山吏

小田原大北辰

日本將軍世子大内源家光分

甚ク奇異ナレ大劇

英婦ノ火刑ニス

中窓日本市名

日本將軍上様

ハキユクニス

印土ノ宗教ハバマナバト

日本甚ク美麗ナル馬

一八七

二五九

三六八

一三一

二四九

二五九

二四九

一〇〇

四一五

三八七

一〇三

一四九

二三〇

二六八

二五九

一四九

二五九

一四九

一四九

京都御所ノ御所

日本橋區ノ宮殿ハ吐露登リノ

公方ノ宮殿

本南極ノ宮殿

平ノニ在ル南極ノ南館

ハコ仲

ハナリユカシ 印ノ市合

ハンタラシ 一街坊

ハシカシノ

ハシカシノ 一景

ハンカバノ 寺院

ハナヤタノ 一景

ハルハツタ

オノリユス コノネリヌ ヲノ

オノリユス 大ハハ 燗々ニ手ヲ烘ラ

オノリユス オノコノラ

神聖ノ御信スル 一ノ

オノリユス 水田ハ白ラ 劇シキ 焚痛ヲ致ス

常設スル キバウラマ

オノサニヤス

二二七

一一二

一三七

一四三

二二八

四三九

四一十

一三

二〇七

一六五

二八一

一三五

二五〇

三五一

二〇〇

四一七

四一七

二二一

二四九

四四九

一〇九

大々んは哉

一六九

べしアカリ赤ん

四五五

奇異ナル船

四五六

プラー

四五九

美皮紙ハ何ヨリ出ルヤ

三三五

波斯ハ太陽ヲ神ト爲シ居ニ三楹ノ祭ロヲ設テ馬ヲ供ス

四五八

西漢ノ佛像

二五九

書記算數ノ墨法

三三三

ペーハルナルハレスオブラリシハ東明王旅行ノ事ニ入ナリ

一五五

ペーハルハグチヌス日本ニテ實地

一七二

ペーハルハフククハヒラヌ日本使節メ

二五九

客路

三二二

使節ナル順序

三二四
三二五
三二六
三二七
三二八

死去

三三〇

埋葬

三四四

ペーハルハフククハヒラヌ日本使節メ

三三〇

去リニ捕ハレ

三三三

ペーハルハフククハヒラヌ日本使節メ

三三三

ペーハルハフククハヒラヌ日本使節メ

三三三

ノトハルハフククハヒラヌ日本使節メ

三三三

日本貴人武左衛門

三三三三三三

セーロシニ在ルビコロダマダ

一三四

日本ノ演劇ビハシゴ

一五〇

高麗都府ビシヤシ

一五八

兵庫大北衆

一八〇

水リクヲリヲリノ奇異

二〇二

幸福及ヒ木路福実

二〇三

成リカレヒユス強殺セラル

二〇三

大ニホク蛇

二〇三

鞆野河ボウヤシク

二〇四

素地ガレゴユリユス

二〇三

ブーハ如何ナク廻ナルヤ

二〇九

牙一ノ人ブーランク

二〇九

ビユロセシ

二〇三

ビユロビル

二〇三

ビユロタモ

二〇三

ビユロハフハローシナリ

二〇三

全ク奇異ナル矢

二〇八

日本橋内諸具編綴加機水責火地異

二四二

ビユロノ島

二四二

ビユロノ島

二四二

ピラミール

洞白殿ハ親政ナシモ幕府ナリ

信臣ニ煽動セラルシト仰正太南様ニ願ヒセラレ

高白ナシハは幕府ナラヌ仰又ノ變スルニ千箇ノ兵隊ノ設

幕莫ク燃レテ仰又ノ御

又平遠ヲ請集シテ威權ヲ掌握セシメ

太南様ヨリノ五丁餘ノ難向ニ存

誘致セラル

親政ノ列去シ佛内ニ入り道者ハ改称シ高野ニ籠城ス

白ラる領ヲ全クモシラス

藩ニ白裁ヲ命セラル

割腹 火葬

官兵衛殿ハ豊後侯アラシシメキエヌヲ撃ツ

其子ニ況通ヲ納

クワホ日本將軍ナリ

其補佐

赤谷赤太

南東

スダ

アラシグ城

三九二

一六三

一六六

一六八

一七〇

一七二

一七三

一七四

一七五

一七六

一七八

一七九

一八〇

一八一

二四九

二四六

二四七

二四八

二四九

三六九

四二二

マニラ島

三〇

東京府

三〇

キヨア城市

一

コシボアニハ生ノ奇里ナリ言語ヲ用ル

三〇

ラビーンヤインノ遊紀行書

三〇

ラビーンヤインノ遊紀行書

三〇

新轉刑宗叔ニ因信ノ者ニ施ス

二〇

ラゴロ井大地段

二〇

日本馬場

一〇

日本騎兵裝飾

二〇

羅瑪本橋ノ京ノ離歌リオゴセス

二〇

ノリマレノ酒長口ノ末分可哀

一九

羅瑪人七帝ヲ神々ス

一四

ロマニユノ信書

二〇

ルセモレノ異道

一〇

日本杖

一〇

日本巻版

一〇

ノリマレノ神ノ在ルヲユメシ島

一〇

ヲユメシノ土

九七

日本采

一〇

執政善内府様ニ抗シテ軍ヲ起ス 取走ス

三良左衛門殿

サカサノ朋友ニ信義アリ

蓋飲器

坂本村々々々

火カ

堺

吐麗十ノ寺

商業整治

城市

酒飲科

酒井左衛門殿

作木左衛門殿

佐渡殿スヘキスノ縁談

日本情軍左大臣源光忠公

基持宗徒ノ警叙左衛門殿

サキユレトヒユス國ニ被ラレ

齋ハ寺屋ニ長主ス

サモギイテシ此ノ庄僕寺事

サミユエノブロンマール

一八四

一八五

一八六

一八七

一八八

一八九

一九〇

一九一

一九二

一九三

一九四

一九五

一九六

一九七

一九八

一九九

二〇〇

二〇一

二〇二

二〇三

馬三郎殿ハ在田中蕭ハヲ甚々憐愍ス

下ノ氣 日本有ク

柳ハシタルコトモコエハ本火利ニ履セラル

シモコトド

地獄 佛騰水

此以テ以テ流流ス

栲向ノ地落命ス

又那村落シシヨクシモハ精巧洞窟ヲ産ス

硯黄山 シユルヒラマ

シキス々ユス身及世法王日本使節ニ感連ス

地ハ何故道案セラルヤ

人ノ傷害スルノ驚ノヘシ

ツアリユスセトロコニ於テ功業

釋教徒ハ難クヲ禁セス

火燈

日本兵卒ノ版割

騎衛兵

フロン

日本ニ於テハ太陽ヲ如何ニ想像スルヤ

神事スルノ甚々為ノ且ツ遠シ

一九六

六六

二三四

二三四

二三四

二三四

二三四

二三四

二三四

二三四

二五三

二五三

一三三

一三三

二三八

二三八

二八九

二八九

二五七

二五七

ハイル及びモロツクハミノオウ下シカ何奉事スルヤ

二五七
二五八
二五九
二六〇

埃及人ノ本湯説

二五八

日本八何故本湯ニ奉事スルヤ

二五九

日本八本湯ニ奉事スルハ希得人羅瑪ハ同シ

二六〇

スラシコトノ器思村

二六一

西班牙王威力

二六二

スベルウエニ偶然来航ス

二六三
二六四
二六五
二六六
二六七
二六八
二六九
二七〇

甚メ珍異ナル食料

二七一

日本靈龜

二七二

日本貴婦ノ粧飾

二七三

註

奇文ノ古碑

二七四

甚メ貴重ナル石版牛

二七五

ステーンズボルト

二七六

ステーンズボルトハ一ゲン

二七七

支那山城ノ沿革

二七八

ミタムツブニワト 怪異ナル林藪

二七九

紐黄ハ如何シテ發来スルヤ

二八〇

ニコルガム 天童

二八一

駿河成市

二八二

堀尾 南名

三ヨクアノ 家宗ニナル 僧 所業

三九四 三九五 三〇三 三〇九 三一一

蘭國ハシ 紀向ス

三三八

精向

三三二 三三八

高山

三三二

タカヲキニ

一五一

日本ノ食糧

一六七

藤吉即後ニ 則榮入本向様ニ 杯ス

一五六

其於商家ノ 産奴々ノ 一五六

後信長ニ 事ノ

盜者ヲ 許ハ

市尹ハ 十ハ

信長ハ 少子ヲ 嗣佐ス

柴田殿ヲ 相シ

自ラ 向白殿ニ 杯シ 終ニ 本向

様ハ 乃リ

諸候ヲ 高麗ニ 遣リ

軍旅ニ 從事シ

ヒリフヒリ 杯シ

ニ書リ 贈リ

裁地ヨリノ 使者ヲ 請フ

日本ニ 羅瑪基 崎宗徒ヲ 卷シ

商業ヲ 盛ル

甥ニ ハシ 奉テ 諸候ト ナシ

他ノ 諸候ヲ 徵小ニ セシ

一子ヲ 奉テ 位權ヲ 之ニ 奉ル

高麗軍ヲ 起シ

老耳ニ 及テ

一子ヲ 奉テ

位權ヲ 之ニ 奉ル

取帝ニ 貴重ナル 車及ニ 贈物ヲ 贈リ

向白殿ヲ 慶賀シ

請フ 一七〇 家ヲ 恐レテ 夜ニ 來シ

飛厚殿 盛饗

ヲ 請フ 一七一 甥ヲ 召シ

難向ヲ 設テ

者ヲ 一謀計ヲ 用テ 陽ニ

向白殿ノ 啓書ニ 満足セリ

魚ヲ 算テ 甥ヲ 南野ニ 放逐シ

割腹ヲ 命シ

其朋友 婦ヲ 兒童ヲ 殘殺シ

赤痢ニ罹リ^{三〇} 秀頼ノ幼稚ナルヲ慮ニ^{三二} 大御所ニ南議シ^{三三}

大御所ニ遺牒スルニ^{三六} 秀頼神佐ノ任ヲ以テシ^{三七} 大坂城ヲ盛大ニ^{三八}

神リ居ルヲ期シ^{三九} 其死ヲ火ニセシメ^{四〇} 秀頼ノ遺骸ヲ^{四一}

大坂城ニ傳業ヲ造^{四二} 秀頼ノ遺骸ヲ^{四三} 京都ニ宮殿ヲ建^{四四}

往時基督宗徒ハ何故タ^{四五} 秀頼ノ遺骸ヲ^{四六} 京都ニ^{四七}

タリユク^{四八}

タレガリユク^{四九}

タレゾリ^{五〇} 難波市^{五一}

タレシユラ^{五二} 又那城市^{五三}

又那強盜又オカイ^{五四}

又ノアキヤ^{五五}

難波ハ又那高麗日本及ヒ^{五六} 高麗利州ニ^{五七}

殊ニ日本ニ^{五八}

高麗人ヲ^{五九}

又那ニ^{六〇}

至リ神リ居ス^{六一} 古昔ノアテニ^{六二} 人埃及人ノ如シ^{六三}

難波記事^{六四}

神中八羅^{六五} 神ヲ崇信者ヲ^{六六} 祀敬ス^{六七}

テメテ^{六八} 佛^{六九}

テモル^{七〇}

テハノ

四四一

魔神ノ祠堂

四四六

悪魔

一七九

百像三の六十五箇アリキ

八〇

一向宗者 五ノノ百像アリキ

一〇二

神社 佛堂

一一二

日本書院ハ吐虎ナレバ遊亭奴持ニ似シ 大坂市外ノ奇異ナル者 一一六

テシテリ八宗坊ニ鱈魚ヲ捕ル

一三〇

ヲシイライ山

四三九

テルナリテニ島

五三九

テルナリテニ山

四一六

悪宗利根ノ悪魔ヲスカカリビユル

七一

クマノ火刑

二二九

日本茶

二二〇

テスビス初テ惣長刷ヲ演ス

一四四

カーマ及ビヨアキノ偶然捕ハル

一九八

カーマハリ

三一一

カーマジビオニス確信不変

二四九

カーマターニ荷蘭人ヲ困ル

三二〇

葉ハミコ身ヲ奪ス

三三一

カリマヤコブスブリン

三二一

カリマフリス捕ハル

三一一

基督宗徒英子ノ答函ヲ取ラル

二三八

日本將軍ノ御座甚ク美麗ナリ

三二五

チブリユス暴虐

一六五

チビユルリス

一八九

チモソノ哀劇ノ利益

一四四

タモトチリノ英子久シク基督教ニ從事セシヤ

二〇三

タリユリスフユスバシヤニユス

二〇四

タカコチカン島

二〇二

藤堂ノ可突依托

二〇七

殿ノ衣裝

二〇四

日本ノ殿ハ誰ナルヤ

二〇六

カンカワ川

一一一

カンタワルハ市冬

一一一

日本ノ劇場

一四四

基督宗徒日本ニテ演ス

二二二

東洋ノ明地

二二〇

土佐人ノ衣服

二二二

ツバシ神

二二二

日本ノカラシガ

カラシガ洞堂

可像

日本譯官藤九郎の捕ハレタル蘭人ニ從事ス

和向題目

東紀文振

名分ヲ殺セシメ

羅理ハ特ニ宋使ヲ抗拒ス三三九 蘭人ノ通商ヲ禁ス三三三 英老ヲ殺ス三四五

羅理ヲ好ミ居地ヲ幽流ス三四五 後ハシ三四三 羅理上ノ女ヲ殺シ三四三 姓ス三四三

其子ヲ殺ス三四三 羅港ノ使者ヲ殺ス三四三

トリノノミユス

トリスシロテシ

ヨト末徒ノ始儀

羅理人ノ始儀

ハフユキロノ始儀

ハフユキノ始儀

タニタニロニルノ始儀

タニタニノ始儀

坂及國ニテハ又ク殺ス者ノ屢刊

日本將軍ノ屢刊

三〇八

三三三

一〇七

三三三

三三四

三三四

三三四

三三四

三三四

三三四

一〇九

三六〇

三六〇

三六〇

三六〇

三六〇

三六〇

三六〇

三六〇

三六〇

三六〇

フワロイ 一八二

フマキユヌガヤ 偽然東印出ニ漫遊ス 一八三

海ニ復ニ漫遊ス 一八四

峰殿方ノ襲ヲ復ス 一八五

坊主并ニ信長ノ根ニ因リ襲撃シ 一八六

撃ヲ殺ラシ 一八七

ヨシヨシ上ニ郡邑 一八八

ノビユヌガヤヨシノ暴虐 一八九

日本及ニ難難多首佛 一九〇

三兵隊大野戦 一九一

改名ニ註ニ於テ何ノ時ニ居ヌヤ 一九二

自ラ入水死ス北者日本ニテハ如何居ヌヤ 一九三

諸般人山ノ轉成 一九四

魂魄移轉ノ説ハ釋教派ノ唱ルニ所 一九五

此説古當初何ヨリ發明セルヤ 一九六

フニニカリス城行中 一九七

日本人羅瑪ル城ヲ棄テニ城ニテ甚ク残骸ヲ加ル 一九八

大神ノ巫下 一九九

噴火山ノヌヒユヌ 二〇〇

ヒノカウニユヌ若ク久シク十字架上ニ存在セシヤ 二〇一

四頭佛何ノ処ニアルヤ 二〇二

マシセミユスコロシ成殺セラル 二三九

モラコロシヤ佛 二五九

日本魚類 二五九

漢法 二五九

フリテリユスノ幕儀 一六四

盛粧ニテ牛ヲ蘇ル 二五〇

ロカシフビユルムリノ悪魔 二六〇

大ニ即獲教ニ心酔シタルホコシユラ 二〇九

釋教ハニテハ眞神ノ大完全ヲ何クニ定ムルヤ 三四八

日本將軍ノ後室 一一三

瑞々白杖 生理 織飛 一一三

ユサシキユス韃靼ヲ又即ニ誘入ス 四二

白杆日本城市 二一六

即續宗徒者堂ヲ建リ 二一六

宇土城 一八二

昔時ノ釋教ハニ火ヲ尊奉ス 二三〇

各國ノ釋教ハニ於テ火ニ神事ス 二三一

北中火 二四一

日本燈明臺 二四一

日本心行 一〇一

山崎主殿御生業

ライルズンアダムス日本都城に攻留ス

ライルズンハレシブルブーシ始メテ北方ヨリ康州出テ航行ス

客死ス

ライルズンハレシブルブーシ客路

日本ヨリ撃退セラル

英王ライルズン其子に激戦ス

日本島風

ライスハス一併印キ

戦国生ル 奇異ナル話

何故ニ狼ニ神事スルヤ

日本ニテ羅瑪傳説ノ后ニ慶シタル奇事

セラ信スルハ何人ソヤ

サハリユス奇事

日本南戦

南戦場

非常ノ殺伐

ライジムルソラマ約業

非常ニ奇事ス

日本釋迦佛

二六九

一九四

一九六

三二三

二九〇

二九〇

一九一

二一四

二一四

二六五

二三九

二七九

二七九

一七

二五九

二六九

二四九

二四九

一七二

三三九

九四九五

一九三

一九四

一九五

一九六

一九七

一九八

一九九

二〇〇

二〇一

二〇二

二〇三

二〇四

二〇五

二〇六

二〇七

二〇八

二〇九

二一〇

二一一

二一二

二一三

二一四

二一五

二一六

二一七

二一八

二一九

二二〇

二二一

二二二

二二三

二二四

二二五

二二六

二二七

二二八

二二九

二三〇

二三一

二三二

二三三

二三四

二三五

二三六

二三七

二三八

二三九

三四〇

寺堂

一一二

百條

一一一

多品

一一一

母ヲ殺ス

一一一

出所

一一一

陸奥宗

一一一

印土婦人白ラ火死ス

一一一

三體仲

一一一

毒堂

一一一

日本傳 少子衆

一一一

カシガレダノ詔歎

一一一

日本教書セシコト

一一一

世々々々

一一一

柴田殿遺書ノ後白裁ス

一一一

鳥居

一一一

羅瑪和精ヲ宗ヲ成リ

一一一

信玄行狀

一一一

又那帝己才日本ニ入民ヲ送

一一一

將軍様

一一一

其凡分

一一一

しユシタレシヲ洗礼ヲ行ノ

二一九

奇異ナル衣服

免罪

死せ

二二〇

難題五こンキ一又那帝ハ及ル

二二

こニシテゴザイノ一火刑ヲ適シシコトハ羅瑪カ精ヲ宗徒ヲ戮刑ス

得ハ威ハ日本ノ羅瑪カ精ヲ宗徒ヲ禁コルル根本

一九九

イシユル奇

奇像

異変ナリ所置

一五二

サハリアスワブナール日本使節カナルニ如キ責任

二二〇

江戸冬遊ハ極豫セラルルニ江戸末島ハ旅費献納ヨリ

二二九

江戸大火ノ厄ニ危難ニ罹ルニ江戸ヲ辭シ長崎ニ遷ル

二二四

拉奪又那船ノ厄ニ大難ヲ臨ム日本ハ自負氣大ニ論メ建言

二二五

英本藩ハ様ト商議ス將軍ノ禁令ハ那帝比至ヨリ長崎ニ再乗入

二二六

幕ヲ奉安シテ大波ト為船ス立都且ト江戸ニ来ル

二二七

豊後陸行那帝比至ニ向テ出帆ス

二二八

サレシム佛

二二九

マラハール帝カモリ

二三〇

奇観 ガマノ南殿ス

二三一

及那ニ從信シタルモ一ラシガ人

二三二

鳥賊奇劫

二三三

甚ク大キ印章タル指環

二三四

海軍壯兵及ニ封船

二三五

アールレンス江ノ冬遊

四三二

慶島ニ訪ハル四三更ニ進行ス四三九生分ニ演メテ先難ヲ言フ

四四一

京都ニ訪ハル四三三バードアマード見ル四四〇京ノ歴史ヲ説ク四四一

四四二

江戸ニ入ル四四二長崎ニテ南島ヨリ言フ

四四三

温泉ハ何ノ源ヨリ出ルヤ

四四四

奇異ナル疾病

四四五

スニト佛

四四六

ワフワイヤ

四四七

皇子ノ后ニ乳母ヲ撰ム

四四八

ワロアミテル魔術者ノ前祖

四四九

サシハルバヒヤ極

四五〇

又那帝ワシガシニユス向ラ絞死ス

四五二

難題ヲシグワース又那ニ侵入ス

四五三

目錄終

圖譜

外國日本想像圖

大坂至江戸陸路

七ノ八 東蝦土地

己ノコノシナ

平ノ高嶺

仙臺比羅圖

己ノコノシナ

東城塞公衛

平ノ城

一

一

二

二

三

三

三

四

長崎出島

五二

漢者

五三

長崎人衣装

五四

日本貴人

五五

日本兵隊

五六

長崎王山宮水踏

五七

大阪

五八

魔神

五九

觀音像

六〇

觀音像

六一

蘭使入京

六二

三體佛

六三

立部

六四

新永久寺使立部御方立部御方

六五

己身

六六

日本農人

六七

井中坊主

六八

奉行行装

六九

信者入京

七〇

割腹自裁

七一

山伏

一六八

古者

一六九

箱根園山

一七〇

盃祭

一七一

増多神社

一七二

カラコガ堂

一七三

將軍少内行装

一七四

江戸

一七五

河橋陀

一七六

千體佛

一七七

調教

一七八

江戸城

一七九

日光神廟

一八〇

辰墓

一八一

猿音

一八二

猿

一八三

禁裡御所

一八四

競馬

一八五

觀音坐像

一八六

太倉橋ノ北政所聚樂所ニ赴ク

一八七

廣部杖

一七一

瀧白殿白晝

一七五

ハニ及ヒテハノ像

一八四

日本平氏衣裝

一八四

大坂落城

二一三

火刑

二五二

地獄懸水

二四一〇

日本婦人

二四七

大伴堂牛奇

二四八

魔神

二五六

坊主詭叔行

二六四

南地

二六五

修驗者

二七〇

立部二怪城

二七三

標ノ丸弁

二七四

賣魚者

二八〇

長崎番兵

二八三

蘭人南朝ニ三捕ルル

二九一

振宗

二九五

日本騎兵

二九六

西人旅行

日本公家

紀伊

日本唱歌

紀伊

日本軍書

日本貴婦

日本貴官

日本各地記事

江戸地志

三二七

三〇〇

三〇〇

三〇〇

三〇〇

三〇〇

三〇〇

三〇〇

三〇〇

三〇〇

將軍御見

土佐八衣裳

結城

江戸佛

江戸火災

江戸下子城肥前

日本貴官

府内城景

日本貴婦

噴火山

三〇〇

三〇〇

三〇〇

三〇〇

三〇〇

三〇〇

三〇〇

三〇〇

三〇〇

三〇〇

才不つり城

慶島城市

ハタロマノ山

使節長崎島港

四三二

四三九

四三九

四三九

